



メッセージ頂きました



所内職員研修サポートをお願いしている先生から

なくてはならない存在

NPO法人CSビジネスサポート
志賀里世

中小企業の経営に関することや、新たな事業を始める時の企画やアイデアを考える、経営企画コンサルティングという仕事をしています。今は、定期的にJoint Joyのスタッフの皆さんに関わらせていただいているのですが、もともとの関わりは私が京都ほっとはあとセンターという団体で、就労支援事業所を利用している方たちの工賃を上げるために就労支援事業所のコンサルティングをする担当をしていた、たしか7年くらい前。

その当時はまだまだいろんなことが準備段階で、そこから少しずつ計画的に進めてこられたのを、程よい距離感で見せていただけたと、あらためて思います。

就労支援事業は、実はとても難しい事業。

何年ものあいだ障害という言葉でくられ、能力や障害特性に関係なく働く場の少なかった人たちそれぞれの、持っている能力や性格をしっかりと見極めながら、働けるように支援するという訓練の要素が強い側面と、もう一方では事業としての売上を上げるという営利企業と同じ側面があり、両立していかなければ成り立たない仕組みで、たくさんの就労支援事業所が試行錯誤しています。

そんななか、Joint Joyが他よりも順調に計画を進めてこられたのは「お客様に喜んでいただくこと」を大事にしてきたからではないかと思います。Joint Joyの商品を買ってくださるお客様に喜んでいただくことを全員の役割とし、スタッフも利用者も、一人一人を社会のなかで生きる人として育てるという、今までの福祉ではない視点で進んでこられたことが、今の結果につながっているのかもしれない。

一泊旅行行ってきました



2年かけて積み立てた旅行資金で、一泊旅行。「どこへ行こうか」「いつ行こうか」「何に乗っていこうか」と話したりアンケートをとったりしながら、半年かけて計画しました。

12月13日、いざ出発。と、いつものごとくその前にお弁当のお仕事をすませ、箕面スパーガーデンへ！京阪と阪急電車を乗り継ぎ4時半到着。紅葉が少し残り、景色が意外にきれい。グループに分かれ、温泉に夜空夜景満点の露天風呂、食事はにぎやかにバイキング、歌謡ショーやゲームもあり、みんな楽しむことができたようです。翌日は、旅行会社をお願いしていた観光バスに乗り、カップヌードルミュージアム、それぞれ好きなヌードルをつくりました♡それからエキスポシティへ。

ためた金額がそう多くないこともあり、行先も限られた中でしたが、メンバーさん



作業場の拡張



メンバーの利用が増える中、昨年夏からメンバーさんの目的に合わせ、一定のスペースを保ちながら作業できる環境づくりを考えていました。また、農作物を増やすため、畑を探していることも前回のJoyたよりでお伝えしていたこともあり、ご縁を頂き、あらたに八幡市岩田にある畑とおむすび屋お隣の部屋を作業スペースとして設けることができました。

おむすび屋のお隣は、1階の半分を組みひもと受託の手作りショップに、残り半分と2階を作業スペースにしました。ショップにハンドメイドの小物がたくさん並べばよいなあと思っております。担当のスタッフが、メンバーさんと一緒に徐々に店舗らしくディスプレイしてくれています。

また、岩田の畑は数名で使用されているところで、4畝くらいでしょうか、つかわせていただくことになりました。淀の畑とは土も違い、何が良いかとりあえずサニーレタスや豆を植え、この春収穫できました。まずまずのでき、淀でお世話になっている農家さんの教えもありうまくいきました。おかげで、淀でお借りしている畑も、間隔をあけて栽培できるので、イチゴやえんどう豆が大



人が過去[★]ているはずの感染症。他人事のように、昔話のようにふつうの日常の中では考えら[★]。しかし今回は、わか身に及んでくる不安や危機感を感じ、「えらいこと」と言葉にした力も多かったと思います。まだまだ終息に至っていない現在も、色々なことが「えらいことになっている」のは連日のニュースや経済の流れの中で続いています。

Joint Joyは2月から感染予防に取り組みました。食品衛生管理の内容とほぼ同一なものになるので、メンバーさんと一緒に衛生管理の幅を広げマスクと手洗いを強化させ、3月に外出自粛を所内で呼びかけはじめました。4月、京都に緊急事態宣言が出ると同時に、メンバーの通所を減らし在宅ワークに切り替え、食品販売事業を継続しました。5月、交代制でメンバーさんが通所、6月15日から平常に戻っています。

福祉事業所はできる限り継続するように国から求められること、お弁当を待っていただいているお客様がいること、休むことで生活リズムがかわり体調を崩される方がおられること。この3点をふまえ、大きな持病を持つ人も含めた職員全員が、感染リスクの恐怖をもちつつ休むことなく出勤してくれました。またお客様も私たちがお商売を続けられるように、マスクをつけ会話や接触時間を減らし感染予防に協力くださり、それは今も続いています。

平時から身を守る行動を身につける大切さ、一人のお客様（人）をおもい行動することが自分を守ることにつながることで、みんなが同じ方向を見ることで目の前の課題を乗り越えられること、この3つを職員全員が気付いたと思います。

平常に戻した6月現在、今のところメンバーの体調やリズム、福祉サービス、食品製造などの就労事業も大きな崩れなく続けることができている。地域のお客様、職員、メンバー、そしてそのご家族みなさんの思いをこれからも大切にしていきたいと思っています。

Joyだより №13



2020.6発行

特定非営利活動法人Joint Joy

「○年後どうなっていたいですか？」と
たずね、個別支援計画というものを作成し進めていきます。Joint

Joyもそろそろ自分たちのヒアリングをまとめ、納得のいく成人式が
2020年、世界中がコロナウイルスの影響に翻弄されることになりました。私たちもその影響の
迎えられるように「○年後○○になっていたいです」と明確にして
中、王夫の日々を送っています。今回のことで改めて考えさせられることも多く、あらたな日常に
生かしていきたいと考えています。

Joint Joyは2019年度も引き続き、法人の目的とそれに沿った将来の構想を考え続けました。目的意識を一人一人の職員がイメージしながら仕事に向かい、メンバーへの支援がより有効に、地域に存在する価値（意味）を考える時間を大切にしました。メンバーが27名と増え、その目的と役割を彼らも共有しながら就労訓練に取り組めた7期目でした。

障がいのある方の就労支援という枠組みの中で、企業就労することだけを目的とせず、時間をかけ一人の人として自分の人生を考え行動できる力をつけていただくことをJoint Joyの大切な支援として取り組んでいます。そのような思いも少しずつ伝わり、メンバーの成長も進んでいます。また、障がい者支援という福祉サービスという枠ではなく、地域に必要とされる団体になるには...を



おわかれ

Joint Joyを立ち上げようと考えだした2012年。よくお声掛けくださっていたMさんに相談したときのこと。「頑張ってくれるの！応援するよ！」と背中を押してくださり、Mさんがそう言うてくださるならばじめても間違いはないと考え、行動の力となりました。その後も、要所要所で見守っていただいて、とても心強く感じていました。

Mさんと私がお会いしたのは15.6年前ですが、会話の中で、様々な難題課題を理解しつつそれに臆することなく前に進んでこられた力強さとそのお姿が大好きでした。

2019年秋、Mさんらしく自宅でたくさんの方に見守られその生涯を閉じられました。

「このお弁当で命、永らえてるのよ。ありがとうね」お話ができただけのお言葉。胸にぽっかり穴が開いたようです。

Mさん、Joint Joyがこれからどうなっていくか楽しみに見守っ



新しい生活様式...

新しい生活様式に切り替えていくといわれるので、工夫できるか考えてみましたがなかなか...。できることを組み合わせて仕事にしていく、それはとても原始的な方法で...。今時デジタルやITの活用はあたりまえですが、そこにたどり着く（活用）までが大仕事。

何かで読んだのですが、子育て躰はなぜなるかという問題に、人は集団で生きる動物。その中で命を育てていくものだから“個”で動くとうまくいかないというようなことが書かれてあり、なるほど納得しました。



= 編集後記 =

Joyたよりの発行は、年4回を目標にしているのですが、それがなかなか、4回出せたのは初年度のみ...。一昨年と昨年度は年1回となってしまいました。もっとタイムリーにと、仕事の年間予定表に記入してはいるものの...反省でございます。2020年こそは！いろいろな方からの感想やご意見も載せていけたらと思っております。原稿をお願いしましたら、どうぞよろしくお願ひいたしますm(__)m



〒614-8376

京都府八幡市男山竹園2-1 A03-110

☎075-981-2111

fax075-981-2277

特定非営利活動法人 Joint Joy

male joint-0523@forest.ocn.ne.jp

HP <http://www.jointjoy.jp>

指定サービス事業所

就労移行 就労継続B 就労定着

No 2612901369

指定計画相談

No 2632901522